

(1) 特別課題研究

釉薬テストピース及び釉薬データベースの活用 (3/8) データベース拡充、並びに有効活用の促進(2/3)		NO. 17
研究機関／担当者	瀬戸窯業試験場	朝野 陽子、長谷川 恵子
研究の概要	研究の内容	産総研より譲渡された15万点の釉薬テストピース及び使用許諾を得たデータベースについて、産地企業等が有効活用できるようデータベースの拡充、検索システムの充実、閲覧環境の整備を継続するとともに、産地企業の要望を踏まえ、現在流通している原料を用いてテストピースの再現試験を行い、有効活用、技術指導の指針とする。
	研究の目標	①テストピースデータの入力2,500件、台紙の入力2,000件を目標とする。②釉薬テストピースの再現試験については10件を目標とする。③釉薬テストピースの有効活用に関する研究会を開催する。
	備考	[県] あいち産業科学技術総合センター管理運営事業費

高機能性セルロースナノファイバー (CNF)・カーボンナノチューブ (CNT) 複合構造体の開発および低温型遠赤外線乾燥システム等への応用 (4/5) 低温型遠赤外線乾燥装置の試作および食品素材の乾燥実証予備実験(1/1)		NO. 18
研究機関／担当者	瀬戸窯業試験場 食品工業技術センター 本部 (共同研究支援部)	高橋 直哉、児島 雅博、長田 貢一 近藤 温子、瀬見井 純、吉富 雄洋 船越 吾郎
研究の概要	研究の内容	遠赤外線放射 CNF・CNT グラフェン添加セラミックス複合体を創成し、食品素材の乾燥工程における新たな熱源として活用することを検討する。食品素材に対して効果的な加熱を可能とする遠赤外線放射体を作製するために、有機と無機複合型ナノ素材の検討を行い、同複合体を用いた乾燥実証予備試験を行う。
	研究の目標	低コスト、省電力を達成できる低温型遠赤外線乾燥システムを構築し、食品素材における食味や栄養成分の向上を目指す。
	備考	[(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構] 「知」の集積と活用による革新的技術創造促進事業(異分野融合発展研究)

(2) 経常研究

窯業原料における可塑性評価の実用化研究 (1/3) 蛙目粘土における可塑性評価の実用化 (1/1)		NO. 16
研究機関／担当者	瀬戸窯業試験場 三河窯業試験場	長田 貢一 山口 敏弘
研究の概要	良好な粘土採掘場が枯渇してきているため、従前材料に多種少量の材料を混練し、継続的な坏土の配合調製が必要である。粘土鉱物の構造と特性から想定される結晶性および可塑性の相関関係を明らかにし、蛙目粘土を対象に、迅速で従前同様な粘土の調合法を検討する。	

伝統的上絵加飾技術の応用による現代瀬戸焼の高付加価値化に関する研究 (2/2)

NO. 17

伝統的上絵イッチン技法を活用した新規瀬戸焼製品の開発 (1/1)

研究機関／担当者	瀬戸窯業試験場	長谷川 恵子、朝野 陽子
研究の概要	レリーフ状の盛り上げ装飾を特徴とする上絵イッチン技法「凸盛り」は、明治から昭和期にかけての本県輸出陶磁器固有の加飾技法で希少性があり、その立体的で装飾的な加飾は感性価値が高く、現代の市場ニーズに向けた高付加価値製品を製造する上で非常に有用である。本研究では凸盛りの装飾的加飾を現代の瀬戸焼製品に応用展開して、現代の感性やニーズに適合する新しいイメージの陶磁器製装飾品を試作開発する。	